

2016年9月26日

各位

オリックス株式会社

デュープレックス銀座タワー5/13(ファイブサーティーン) に 「THE PRIME POD 銀座 東京」を10月1日(土)オープン決定 ～商業ビルのフロア活用の新しい手法としてホテル事業を展開～

オリックス株式会社(本社:東京都港区、社長:井上 亮、以下「オリックス」)は、所有する商業ビル「デュープレックス銀座タワー5/13(ファイブサーティーン)」の11～13階に、商業ビルのフロア活用の新たな手法として、ホテル事業としては新領域である「THE PRIME POD 銀座 東京」を10月1日(土)にオープンいたしますので、お知らせします。



デュープレックス
銀座タワー5/13

「THE PRIME POD(ザ プライム ポッド)」は宿泊に必要な機能を厳選し、コンパクトながら“まゆ”(Pod)の中にいるような安心感・充足感を感じられる新型ホテルです。「就寝」、「グルーミング(シャワー、洗顔など)」の機能に特化することにより、リーズナブルな宿泊を実現しつつ、セキュリティにも配慮し安心感を高めています。104のユニットには「19インチのTV」や「手荷物用ラゲッジスペース」、「セキュリティBOX」などが完備され、共用のサンタリーにはシャンプー、ボディソープ、ヘアドライヤーやランドリーコーナーも設置されています。各フロアにはカードキーによるセキュリティシステムが導入され、女性の一人旅でも安心してお泊りいただけます。ラウンジは、ホットドック、コーヒーなどの朝食提供のほか、宿泊者同士やスタッフとの語らいのためのスペースであり、食や観光などの街の情報や文化が行き交い、混じり合う交流の場となります。

全体デザインは、各業界で高い評価を受けている SUPPOSE DESIGN OFFICE の谷尻 誠氏、吉田 愛氏が担当し、コンセプトである「シェアしたくなるデザイン」を具現化しています。

「デュープレックス銀座タワー5/13」は、歌舞伎座のある三原橋交差点に面した、利便性、視認性ともに良好な商業ビルです。訪日外国人旅行者が増加の一途をたどる中、宿泊施設の供給は社会的な課題となっています。また、宿泊施設に対するニーズも多様化により、機能特化型ホテルの需要も増加しており、立地のよい当ビルにて、商業ビルのフロア活用の新たな手法として「THE PRIME POD」を開業することといたしました。



THE PRIME POD (イメージ)

“滞在に必要な機能を厳選し、コスト消費にむけた情報が集まる。”「THE PRIME POD 銀座 東京」を是非一度ご利用下さい。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

オリックス株式会社 グループ広報部 永井・松川・上園

TEL:03-5418-4313

【ホテル概要】

- 名称 : THE PRIME POD 銀座 東京
- 所在地 : 東京都中央区銀座 5 丁目 13-19
デュープレックス銀座タワー5/13
- 交通アクセス : 東京メトロ日比谷線・都営浅草線
「東銀座」徒歩 1 分
東京メトロ銀座線・日比谷線
「銀座」徒歩 5 分
- 運営者 : クロスホテルズ株式会社
- ユニット数 : 104
- ユニット仕様
- ・壁掛け TV (19 インチ、角度調整可)
 - ・ラゲッジスペース
 - ・調光機能付き照明、読書灯
 - ・ナイトパネル
(デジタル時計、AC コンセント、USB)
 - ・セキュリティ BOX
(スマホや PC を充電しながら収納可)
 - ・ベッド (W900×L2,000 以上)
- サニタリー
- ・無料タオル
 - ・無料シャンプー&ボディソープ
 - ・ヘアドライヤー
 - ・ナイトウェア
 - ・ランドリーコーナー (洗濯&乾燥機)
- ラウンジ
- ・無料 WiFi
 - ・カフェ&バー
- セキュリティ
- ・24 時間有人レセプション
 - ・24 時間監視カメラ
 - ・カードキーによるセキュリティ制御
(女性専用フロアの設定)
- ロゴ
- : 「THE」の書体を左右に幅広く拡張することで、「人」、「情報」、「文化」が集まり、混ざり合う場所として、様々な価値観を許容するキャパシティーの広さ・深さ、存在感を表現しています。また、藍色の配色は、PODにおける深い眠りをイメージしています。



ユニット (イメージ)



サニタリー (イメージ)



ラウンジ (イメージ)

THE
PRIME POD
GINZA TOKYO

Press Release



デザイナー SUPPOSE DESIGN OFFICE (サポーズ デザイン オフィス)

デザイナーには、尾道のサイクリスト向けホテル「ONOMICHI U2」をはじめ、各業界で高い評価を受けている「SUPPOSE DESIGN OFFICE」を起用。「シェアしたくなるデザイン」をコンセプトに機能性、デザイン性を満たした空間を具現化。



(左) 谷尻誠氏

(右) 吉田愛氏